

# 子どもとともに育ち続ける謙虚さを



静岡大学助教授 ● 馬居政幸

夏休みのある日、久しぶりに夕食をともにしたわが家の四人の子供たちに担任のことを聞いてみた。

「先生のことがどう思う」（私）

「だーいすき、でも、お母さんめだいですきだよ」（次女二）

「ぐらいなことはないけど……………」こわいよ。…………一番いやだったのは先生にみすてられたとき…………授業中騒いでいて、なにもしゃべってくれなくなつた…………」（次男二）

「六年間振り返つてどうだ」（私）

「一、二年の時は…………最初は幼稚園と比べてこわかつた。三、四年のときは学年で一番こわい先生だつたけど…………優子（こ）はこわくなかつた…………。それから五年のときは、とにかくやさしいんだけど…………。優子にはあわないんですあ（私）の先生は一、二年にあつて。六年の先生は、おもしろくていいんじゃない。ときどきものすごい声でおこるけど、しよつちゆうおこるわけではない」（長女二）

「先生がおこつたとき、クラスのみんなどう感じる」（私）

「オー、ついておこつた」（長女）

「みんな知つてるんだ」（私）

「そつよ…………でも、一回おこるとあといわれないからいいの。こわくていやだな、という子もいるけど…………すべ

根に持つ先生はきらい」（長女）

「聖一、おまえはどうだ」（私）

「そつだ…………ただ勉強、教えてくれるだけの人かな」（長男一）

「アツソワ…………じゃ先生にむかつくときつてどんなときだ」（私）

「ウーン…………、弁当くつてるときに歩いて怒鳴られた」（長男）

「それはお前が悪いだろう」（私）

「そりやそつだけど、怒鳴ることはないだろう」（長男）

「先生とは話すのか」（私）

「話しかけてきたら話すけど…………、部活の先生は別だけどね」（長男）

「小、中、高と先生とつきあつてきて一番変わったことは」（私）

「先生にも間違いがあるといふことがわかつたこと」（長男）

「それはいつごろからだ」（私）

「ウーン…………よくわからんな…………いつのまにかかな…………」（長男）

先生が大好きな次女は家庭では未つ子の甘えん坊。だが上三人を見て育つたためか、授業内容のほとんどは予習すみ。この点は次男の光一も同じ。家では上二人にいじめられても学校へいけば元気一杯。二人とも先生の片腕のつもりでガンバッテいる。

六年生の長女はかなり覚めている。

弟や妹のように単純に「好き」や「怖い」で判断しない。問題は「相性」。

先生が怒ることも見通している。ところが、担任の長女への評価は「やさしいけど、もう少し元気にね」。家庭で下二人をどなりつける長女を見ている妻は、この評価にとまどつている。

他方、「先生にも間違いがあつて」と突つ張る高一の長男にとつて、先生は自分の前に立ちふさがる壁。「好き・嫌い」「怖い・優しい」「相性」と変われど、小学生三人にとつて先生はあくまで「教える師」。だが長男には勉強を「教える人」、師ではない。「人」である以上、あえて話しかける必要も、ちよつと歩いたぐらいて怒鳴られる理由もない。だが自分の「先を生きる人」ではあつてほしいようす。

子どもは多様である。私の子ともたちのように、学校と家庭で逆の場合も多いはず。子どもとの成長とは先生を見る目が厳しくなることもある。

子どもとの成長と変化は加速度的。子どもにまけず日々に新たな自分を創造することを忘れないでほしい。そして同時に、初めて「先生」と子どもと呼ばれた日のとまどいもまた忘れないでほしい。教師が子どもに対して最も謙虚であつた日の姿だと思つからである。

# 「イエス・ノー」が言える 学級を創る



●魅力の連載欄 ●すぐに役立つ! ●今年のテーマは「自学ノート」 ●「追究の鬼」は誰でも育てられる!

←GUIDE



●若い教師へのメッセージ(馬居政幸)  
●グラフィック①=私のパフォーミングス術(土屋喜久子)  
●グラフィック②③=気合いの教室環境づくり(藤本浩行)  
●グラフィック④=学級活動の板書(菊池靖志)

## 提言\*「イエス・ノー」が言える学級づくりの課題

発言することが自己存在になる学級風土を創る  
教師の姿勢を変えるべき

「議論の力」を育てる「教室ティイバー」

「イエス・ノー」が言える自立した子供の教え方

低学年児には最低これだけは教えた

中学年児には最低これだけは教えた

高学年児には最低これだけは教えた

中学生には最低これだけは教えた

「イエス・ノー」が言える学級の雰囲気を見直し

学級世論の形成をめぐる問題点

学級活動への協力、責任感をめぐる問題点

授業中の子供の解の扱いをめぐる問題点

問題行動へのかかわり方をめぐる問題点

「イエス・ノー」が言える学級の雰囲気を見直し

学級ルールがものを言えなくしていないか

「わからない」と教室で言えないのはなぜか

学年にふさわしい学習技能を育てているか

個のよさを認め合い、励まし合う学級か

明石要一 9  
有田和正 10  
安藤 豊 11

鹿島和夫 12  
森 康行 15  
青柳 滋 18  
岡坂慎一 21

戸田正敏 24  
三橋 勉 27  
渡辺泰治 30  
北林 正 33

園田雅春 36  
松本 明 39  
勝又明幸 42  
賀野咲恵子 45

## 「イエス・ノー」が言える一人ひとりの育成

(小学生) 「A T I」を踏まえた指導「イエス・ノー」を言いたくない子どもがいてもいい 吉崎安浩 48

(小学生) YES、NOが言えるシステムづくり 竹内時男 51

(小学生) きちんと返事ができるように 舛田安生 54

(中学生) 授業に「イエス・ノー」の場を 染谷幸一 57

(中学生) 本当に生きる世界をいっしょに創る 小倉泰子 60

連載 (勉強に役立つ)ことわざの話\*2 人各能、不能あり 石井郁男 63

11月 自学力を育てる「自学ノート」と指導のヒント

「小学1年」自学プリントから自学ノートへのステップI 山田 一 64

「小学2年」「パート〇」で自学力を育てる 藤本浩行 66

「小学3年」自学の評価方法 森 新吾 68

「小学4年」算数を自学する(その2) 菊池靖志 70

「小学5年」はてな・発見通信でレベルアップ!! 福山憲市 72

「小学6年」「進歩」を自覚させる 戸井和彦 74

「中学生」考えて書くことの土台を作る 大鐘雅勝 76

11月 学級通信に使えるカット集 石井明子 78

「小学生」学級の問題に向かうときの危険性 橋本定男 80

「中学生」行事を楽しむ 馬場一博 82

●連載「子どもが喜ぶ楽しい小話集(20) 二十数年ぶりの恩師との再会 \*恩師は、なわとび博士」だった 向山洋一 84

●連載「自学力を育てる学級」(1)(2)(3) 行事を自学の学習材として 岩下 修 86

●児童生徒画の見方・評価の仕方(前田康裕)

表紙絵 飯島英明